

# 産婦人科

## 主な対象疾患

- ・正常妊娠・ハイリスク妊娠の周産期（妊娠・分娩）管理
- ・産褥期の支援（母乳育児支援、乳房トラブルなど）
- ・婦人科悪性腫瘍（卵巣がん、子宮体がん、子宮頸がんなど）
- ・婦人科良性疾患（子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮内膜症、子宮脱など）

## 診療科の特徴

### 《産科領域》

- ・県北地域唯一の地域周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠にも対応しています。
- ・産科外来においては、医師と助産師による妊婦健康診査や産褥健康診査および保健指導を行っています。
- ・母児の安全のため内科・小児科および関係部署の支援を受けています。
- ・お産の退院時には、新生児は必ず小児科の診療を受けています。
- ・WHO/UNICEFの母乳育児支援ガイドに基づき、母児をサポートしています。
- ・母乳育児支援外来を開設し、母乳育児や乳房トラブルに関して退院後も継続的に支援しています。

### 《婦人科領域》

- ・県北地域唯一のがん診療連携拠点病院の婦人科として、婦人科悪性腫瘍の診断、治療を積極的に行っています。
- ・婦人科良性疾患の手術は、侵襲が少ない（傷が小さい）腹腔鏡手術やダビンチ手術を積極的に導入しています。
- ・子宮がん検診で、要再検査になった方の精密検査（コルポスコピー）を行っています。
- ・子宮内膜ポリープや小さな子宮粘膜下筋腫は、子宮鏡下で病巣を切除しています。
- ・子宮脱は、リングが無効な場合には腔側より子宮全摘出術を行っています。
- ・更年期障害は、ホルモン補充療法、漢方治療などを行っています。

## メッセージ

私たちは、県北部唯一の地域周産期母子医療センターとして、合併症などのある妊娠（ハイリスク妊娠）の方でも、小児科・麻酔科・内科など他の診療科と密接に連携しながら、皆さまが安心してお産ができる分娩施設をめざしています。

また、県北部唯一の茨城県地域がんセンターとして、子宮や卵巣など婦人科の病気の患者さんが、わざわざ遠方の病院に行かなくても治療できる体制を取っています。

主任医長  
角田 肇

## 診療実績(2021年)

1. 外来総患者数 産科:1,265名(対前年+238) 婦人科:6,788名(対前年+1,331)
2. 入院患者延数 産科:3,822名(対前年+1,354) 婦人科:3,332名(対前年+197)
3. 主な手術件数

周産期	2019年	2020年	2021年	婦人科	2019年	2020年	2021年
総分娩数	290	317	524	子宮内膜全面搔爬	15	22	13
経膈分娩	235	267	402	円錐切除術(レーザー蒸散含む)	18	18	31
帝王切開数	55	53	122	子宮鏡下手術	12	14	11
多胎妊娠	2	3	2	子宮全摘術(腹腔鏡・ロボット)	49(14)	56(20)	67(24)
流産手術	18	23	30	子宮筋腫核出術(腹腔鏡)	11(10)	8(4)	4(1)
頸管縫縮術	4	2	5	卵巣腫瘍摘出術(腹腔鏡)	33(23)	46(33)	60(45)
異所性妊娠手術(腹腔鏡)	3(3)	7(7)	5(5)	子宮悪性腫瘍手術(ロボット)	20(12)	28(13)	23(10)
				卵巣悪性腫瘍手術	26	22	25

## 医師紹介

### 主任医長 角田 肇(つのだ はじめ)

日本産科婦人科学会指導医、母体保護法  
指定医、日本産科婦人科内視鏡学会技術  
認定医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍  
指導医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

### 主任医長 高野 克己(たかの かつみ)

日本産科婦人科学会指導医、日本産科婦人科  
内視鏡学会技術認定医、日本婦人科腫瘍学会  
婦人科腫瘍指導医、日本臨床細胞学会細胞診  
専門医

### 主任医長 漆川 邦(うるしがわ くに)

日本産科婦人科学会指導医、母体保護法  
指定医、日本周産期専門医

### 医長 渡邊 久美子(わたなべ くみこ)

日本産科婦人科学会専門医

### 医員 江幡 莉都(えばた りよん)

日本産科婦人科学会専門医

### 医員 小口 早綾(こぐち さあや)

### 医員 島 みなみ(しま みなみ)

### 非常勤 所 恭子(ところ きょうこ)

### 非常勤 本間 悠(ほんま はるか)

◆お問い合わせ◆

(株)日立製作所日立総合病院

地域医療連携室

〒317-0077 茨城県日立市城南町二丁目1番1号

TEL: 0294-23-8343

FAX: 0294-23-8412